

附中文化の日～合唱コンクール

先週 11 月 19 日、昨年は見送りとなった合唱コンクールを、県立劇場で開催いたしました。変則的な運営となりましたが、PTA 役員の皆さんにもご協力いただき無事に終了となりました。保護者の皆様には、ご多用な中ご来場いただきありがとうございました。

開場前に、ホールの舞台に立って生徒の皆さんの様子を見ていましたが、生徒会が中心となって、各課に割り当てられた作業をテキパキと行う姿がありました。また、学級毎に決められた席に着いていた生徒の表情から、ホールの緊張感が伝わってきました。

各学年の合唱は、練習が十分ではなかったとはいえ聴いている私たちを感動させるものでした。3 年生の音量、響きはさすがでした。1, 2 年生はきつと来年に繋いでくれると思います。

来年も、合唱コンクールを楽しみにしています。

～修学旅行で何を見る？～趣味の世界かもしれませんが…

2 年生の修学旅行は 29 日からの予定です。見学地には、世界遺産の建造物等があつて、個人的にも楽しみにしています。あることがきっかけで木造建築に興味を持つことになった私は、修学旅行で奈良・京都を訪れるたびに、建物の天井や木材の組み方、柱などをじっくりと見るようになりました。

そのきっかけとは、平成 11 年、社会科教師として附中に赴任し、技術科の I 先生と組んで教科総合「道具の歴史と人々の暮らし」の授業を計画、取材のために奈良の斑鳩町にあった「鶯（いかるが）工舎」を訪問したことです。そこは、伝統的な日本の木造建築を手がける宮大工の工房でした。事前に申込をせず、飛び込みでの取材でしたが、運良く作業の様子を見せてもらいました。棟梁は小川三夫さん、故西岡常一氏（法隆寺専属の宮大工棟梁、文化功労者）のお弟子さんで、宮大工の世界では知らない人はいません。いきなり熊本からやって来た二人、伝統技術や道具、木材のことなどを細かく聞くものですから、怪しい者ではないと思われたのか？（名刺はちゃんと渡しました）丁寧に説明をしていただきました。最後には、建築物の図面まで見せてもらうことができました。図面は計算機で数字をはじき出して描くのではなく、長年の経験をもとに描かれており感動したのを覚えています。そこで出会ったのが「槍鉋（やりがんな）」です。よく見る台鉋ではなく、スプーンのような曲線の刃先をした槍状の鉋です（見た目は槍です）。槍鉋で削ると、柱の表面に細長い鱗状の模様ができます。大変な作業ですが、柔らかい質感があり、柱の寿命が長くなるそうです。現在でも、歴史的建造物の柱は、宮大工によって受け継がれた技術と槍鉋によって削られているものがあります。法隆寺や東大寺の柱をよく見ると、槍鉋で削ったあとが確認できます。また、東大寺大仏殿の柱にも秘密があります。よく見ると……

ネタばらしすると、修学旅行の楽しみが半減するでしょうから、この続きは修学旅行で…

※槍鉋は、15～16 世紀には途絶えていたが、西岡常一氏が法隆寺金堂の再建のために復元した道具。

カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究…実地調査について

お知らせです。12 月 14 日（火）、文部科学省から 2 人、実地調査として来校されます。研究授業を社会科の山本翔先生が行い、授業後の「響き合い学習会」は生徒が進行し、学びを深めます。

楓
の
木

学校だより
第 3 号

2021. 11. 26

熊本大学教育学部

附属中学校

〈文責 山本〉